

論壇

閉鎖的な世界最大産油国

経済というのは、本で読むだけでなく、現場を見なければわからないようなところがある。特に国際経済にはそうした面が強い。新聞や書籍で読んだ知識だけでその国を理解しようとすると、重要なものを見落とすことがある。

そうした意味では、今回、サウジアラビアに来る機会があったことは貴重な経験であった。世界最大の産油国であり、中東の複雑な政治の中心的存在の一つであり、そして米国との緊密な関係を維持しているサウジアラビアについて、新聞などで読む機会が多いが、人々の生活について知る機会

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

はほとんどない。

実際、サウジアラビアは海外に対して閉鎖的な国である。日本の普通の人々がサウジアラビアに旅行したいと思っても、観光ビザを取得するのはまず不可能だろう。私の友人で引退後に世界中をバックパックの貧乏旅行をしている人がいる。すでに200カ国以

の学校の教育内容とは異なる。現地にいる日系企業の方に聞いた話だが、サウジアラビア人を採用した後で、算数(数学ではない)なども教えずにはいけないことがあるそうだ。

新聞などでも話題になっているので知っている人もいるだろうが、サウジアラビアでは最近ま

世界への影響力には巨大なものがある。石油の収入を原資にしたオイルマネーは巨大な投資資金を生み出し、国際金融や投資の分野でもサウジマネーは大きな存在感を誇示している。日本でも、ソフトバンクグループが巨額のサウジマネーを取り込んだことが話題になった。

石油化学の分野で優れた技術と経験を持つ日本企業が、豊富な原油を供給できるサウジアラビア国内で石油化学事業を行う意義は大きい。サウジアラビアにとっては、石油事業の下流への展開を進めることで付加価値を上げることができる。日本にとっては、安価で豊富な原油をフルに活用したグローバル展開が可能になる。

サウジで活躍する日本企業

上、世界のほとんどすべての国に行ったというのが彼の自慢であるが、その彼が最後まで苦勞したのがサウジアラビアへの入国であった。

厳格なイスラム教の戒律にしたがった社会となっており、学校は小学校から男女別の学校に通う。教育内容もコーランを中心とした宗教的なものが主体で、西側社会

で女性の自動車運転が認められていなかった。最近になってやっと認められ、そのことが話題になっていくくらいだ。映画館についても最近まで解禁されていなかった。西洋の文化の過度な影響を懸念してのことなのだろうか。

こうした閉鎖的な社会である一方で、石油の分野における同国の

石油化学事業を行う意義

石油化学の分野で優れた技術と経験を持つ日本企業が、豊富な原油を供給できるサウジアラビア国内で石油化学事業を行う意義は大きい。サウジアラビアにとっては、石油事業の下流への展開を進めることで付加価値を上げることができる。日本にとっては、安価で豊富な原油をフルに活用したグローバル展開が可能になる。

今回は、日本の化学メーカーが現地で行っている石油精製・石油化学工業の現場を見る機会を持った。世界最大の産油国であるサウジアラビアには巨大な石油精製設備があるが、重油などの生産が多く、ガソリンなど付加価値が高い製品の精製が十分に行われてきたわけではない。ましてや、エチレンなどを利用した下流の石油化学製品の生産は遅れている。

石油化学メーカーは、日本の多くの産業の中でも海外での売上比率が高い位置にある。そのグローバル化の現場で頑張っている日本のエンジニアの方の努力には頭の下がる思いである。新聞やテレビでも、国際政治経済のようなマクロの問題だけでなく、地域の文化や社会、あるいはそこでの日本人の活躍などについて、もっと報道してほしいものだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。